

# 高画質 DVD-Rでビデオ販売している東京シネマ新社作品



## マリン・フラワーズ 腔腸動物の生活圏

MARINE FLOWERS The Biosphere of Coelenterata

原版 イーストマンカラー35mm 31分 1975年/1994年

3面マルチスクリーン版22分 ハイビジョン版40分 (日本語版のみ)

### 受賞

国際科学映画協会アイトホーフェン大会名誉賞/ブラッセル自由大学科学技術映画祭特別賞/シカゴ国際映画祭教育映画部門金賞/国際科学技術映画コンクール東京大会金賞/芸術祭日本記録映画部門優秀賞ほか

地球上の多細胞動物の中でも、原始的な性質を持つ腔腸動物(刺胞動物: ヒドロゾア・鉢クラゲ・サンゴ)とその生活圏を紹介しています。1975年沖縄で開催された国際海洋博覧会のために製作されたものを、1994年、ハイビジョン・40分に再編集しました。ハイビジョン版は、1994年までに解明された事柄(共生藻とサンゴの関係など)についてナレーションを追加しています。



## ムーン・ジェリー ミズクラゲのライフサイクル

Moon Jelly Life Cycle of Aurelia aurita

原版 イーストマンカラー 16mm 33分 1977年 日本語・英語バイリンガル版

### 受賞

国際科学映画協会ヴェネチア大会名誉賞/ANZASS国際科学映画エキシビジョン特別賞ほか

ミズクラゲは鉢クラゲ類の中でもっとも代表的な種です。ライフサイクルの全てを顕微鏡・接写微速度撮影によって克明に記録しています。よく紹介される世代交代のパターンだけでなく、若いポリプから直接プラヌラ幼生がつくられる等、様々な例も紹介しています。



あばかれた自然の秘密シリーズ

## 生きものは動く 第1部 微小管の機能

an Arcana Naturae Detecta series

WHERE THERE IS LIFE, THERE IS MOTION Function of Microtubules

イーストマン・カラー16mm 25分 1979年 日本語・英語バイリンガル版

### 受賞

国際科学映画協会第33回大会・映画祭特別名誉賞(東京 1979年)/第17回ANZASS国際科学映画エキシビジョングランプリオルピット賞(シドニー1980年)/第9回ブラッセル自由大学国際科学技術映画祭グランプリ(ブラッセル 1982年)/同 細胞生物学賞/文部省特選

繊毛や鞭毛の働きは、内部にある微小管の滑り運動によって起こります。微小管は直径250Å (25nm) の中空の管です。繊毛や鞭毛では周辺にある8の字形の断面をした9組と、中心部の2本の微小管があります。この作品では様々な動物の繊毛や鞭毛を使い、微小管はATPを使って滑り運動することや、その仕組み等を実験を通して示して行きます。微小管は繊毛や鞭毛だけではなく、真核生物の細胞の中にもあり、細胞の移動、細胞の形の形成・保持、細胞内部の物質の輸送や細胞分裂などで重要な働きをしていることも、併せて紹介します。



あばかれた自然の秘密シリーズ

## 生きものは動く 第2部 原形質流動

an Arcana Naturae Detecta series

WHERE THERE IS LIFE, THERE IS MOTION

The Role of Microfilaments in Cell Motility

イーストマン・カラー16mm 26分 1981年 日本語・英語バイリンガル版

### 受賞

第19回ANZASS国際科学映画エキシビジョングランプリオルピット賞(シドニー1980年)/第9回ブラッセル自由大学国際科学技術映画祭グランプリ(ブラッセル 1982年)/同上 細胞生物学賞

動物の筋肉の収縮運動も、植物細胞の原形質流動も、共通してATPによるエネルギー供給とアクチン、ミオシンという二種類の蛋白質の相互反応によってひきおこされます。日本の科学者たちは、その解明を世界的にリードしてきました。この作品はアクチンとミオシンの働きを筋肉で説明したあと、その相互反応を車軸藻類のフラスモ*Nitella sp.*と真正粘菌変形体を使った様々な実験によって確認していきます。



## マボヤの発生生物学

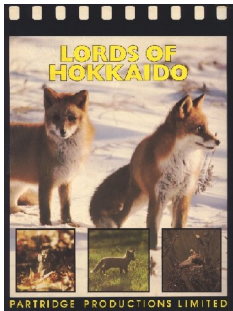
Developmental Biology of an Aschidian, *Halocynthia roretzi*

原版 イーストマンカラー 16mm 26分 1982年 日本語・英語バイリンガル版

### 受賞

国際科学映画協会イエナ大会名誉賞/ANZASS国際科学映画エキシビジョン優秀作品賞/科学技術映画祭科学技術庁長官賞

原索動物はもっとも進化した無脊椎動物と言われています。この作品では、ポピュラーで食用にもされているマボヤを題材にしています。陸奥湾のマボヤには放卵・放精の時期や時間帯が異なる3タイプがあることを、顕微鏡および接写微速度撮影と、水中撮影とで実証しました。次に、一連の発生の過程(受精-卵割-脊索を持つ幼生への形態形成)を克明に記録しています。幼生は基質に付着するとドラマティックな変態を始めます。マボヤは大量に入手できるため、様々な研究領域で実験動物として注目されています。



## LORDS OF HOKKAIDO

原版 イーストマンカラー 16mm 54分 1986年 日本語・英語バイリンガル版

### 受賞

ワイルドスクリーン '86国際野生動物映画祭 審査員特別賞/モントナ大学国際野生動物映画祭(米国ミズーラ)優秀作品賞/第30回日本紹介映画コンクール第一部門金賞/第29回科学技術映画祭科学技術庁長官賞/文部省特選/科学技術庁推奨作品  
北海道東部におけるキタキツネの家族の生態を中心に、オジロワシやエゾシカ、エゾリス、シマリス、サケなど、北の大地に息づく自然を長期にわたって16mmフィルムで記録しました。動物行動学的にも価値のある作品です。現地在住のナチュラリスト、竹田津美・桜井淳史・鈴木泰司の各氏がスタッフとして参加しています。



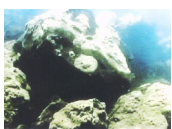
## High Definition Video Image of Protozoa

原版 ハイビジョン19分 1989年 日本語・英語バイリンガル版

### 受賞

国際科学映画協会コトビト大会特別名誉賞/科学技術映画祭科学技術庁長官賞

この作品は日本各地の大学・研究機関で扱っている原生動物21種を紹介しています。アメーバ・プロテウスが、ミドリゾウリムシを捕食するシーンに始まり、タイオウチュウが軸足を獲物を捉えたり、活発に泳ぎ回るディディニウムが自分ほどもあるゾウリムシを呑食する光景が、鮮明なハイビジョン画像下に展開します。ゾウリムシやテトラヒメナの接合と分裂、ツリガネムシの分裂の様子を見ると、原生動物が複雑に進化した単細胞生物であることがよくわかります。



## 淡水海綿 多細胞動物の始まりを生きる

Life of the freshwater sponge

ビデオ作品 カラー28分 1996年 日本語・英語バイリンガル版

### 受賞

第37回科学技術映像祭科学技術庁長官賞/第19回コング(スペイン)国際科学映像祭最優秀学術映像賞/第7回TEPIA/ハイテクビデオコンクール優秀作品賞

海綿動物は最も原始的な多細胞動物として、生物学の様々な分野で注目されています。この作品では、海綿動物が単細胞動物的な性質を残しながらも、真の多細胞動物の特徴を数多くもっていることを、主にカワカイメンを用いて一つ一つ紹介します。

ここまでの作品の価格は、個人・研究室・教室レベルは、¥21,000.- (税込) 視聴覚センター・図書館など貸出を伴う場合は、¥42,000.- (税込) です。送料は小社の負担ですが、銀行振込手数料は、購入者負担となっております。



## 種子の中の海 イチヨウの精子と植物の生殖進化

The Sea in the seed -Sperm of Ginkgo biloba and Reproductive Evolution in Plants-

ビデオ作品 カラー35分 2000年 日本語・英語バイリンガル版 価格 個人研究教育用¥27,500.-、ライブラリー¥52,500.-

### 受賞

第41回科学技術映像祭科学技術庁長官賞/第21回コング(スペイン)国際科学映像祭最優秀学術映像賞/第11回TEPIA/ハイテクビデオコンクールTEPIAグランプリ

陸上植物は水中に生きていた種類の緑色藻類から進化したと考えられています。植物の進化と平行して生殖の進化も進化し続けてきました。現存する植物の生殖を観ることで、生物進化の軌跡を推察します。



## 深海3572mに生きる 室戸沖南海トラフ4年間の記録

Life in the Abyss 4 Years Observations in Nankai Trough, Japan

ビデオ作品 カラー23分 2002年 日本語・英語バイリンガル版 特別価格 ¥5,000.-

### 受賞

第43回科学技術映像祭内閣総理大臣賞

第12回TEPIAハイテク・ビデオ・コンクール最優秀作品賞 映文連会長賞

企画・製作・著作 岩崎望・岩井雅夫・株式会社東京シネマ新社 映像提供：海洋科学技術センター 助成：高知大学地域振興学術基金

日本の深海研究は世界のトップレベルにある。海洋科学技術センターの海底地震総合観測システムの先端観測ステーションに取り付けられたビデオカメラにより、定点での深海の常時観察が可能となった。室戸岬の沖合100kmの水深3572mに設置されたものは、現在までに設置されたものの中で最も深い位置にある。高知大学海洋生物教育研究センターの岩崎望助教授らは、1997年のシステム設置以来、恒常的な観察とビデオ記録を続けてきた。その観測成果をまとめた。

映像サンプルは NPO法人科学映像館 <http://kagakueizo.org/index.html> から全編ご試聴いただけます。この他、旧東京シネマの多くの名作も数多くビデオ化されています。ビデオグラムの仕様および価格は事前告知なしで改定されることがあります。

ご注文・お問い合わせは、株式会社東京シネマ新社

112-0001 東京都文京区白山2丁目3番2-101号

phn: 03-3811-4577 fax: 03-3811-4576 e-mail: [info@TokyoCinema.net](mailto:info@TokyoCinema.net) <http://TokyoCinema.net/>

2008/06/12